

「農地を守り隊」が最適化推進

加古川市

農委・推進委を班に分け、農会と連携

農会長から農地や所有者の状況を聞く農業委員ら



加古川市農業委員会（馬田禎紹会長）は、農地の無断転用の早期発見や遊休農地の発生防止に向け「農地を守り隊活動」に取り組んでいる。

同市農業委員会では、農地を守り隊活動を2011年から実施してきたが、昨年7月の新体制移行後は、

農業委員18人、農地利用最適化推進委員19人を市内6班に分けて活動。各班毎月1回以上活動することや活動内容を事務局に報告することなどを取り決めた。

1月中旬、同市加古川町や尾上町など市街化区域が多い1班では、事前に担当委員と農会長が作成したり

ストをもとに班員7人でパトロールを実施。当日は農会長にも同行してもらい、農地所有者や農地の管理状況などについて説明を受けた。農会長からは「周辺住民から苦情が来ている遊休農地がある。住宅が近く、火が着いたりゴミが捨てられたりする恐れがある。農業委員会からも指導してほしい」といった声が寄せられた。

パトロール後には検討会を開き、所有者が亡くなったりしている農地や相続人が遠くから通って管理している農地ばかりだったため、相続人などに文書で今後の利用意向について確認することとした。

1班の班長を務める農業委員の喜多山常和さんは「市街化区域でも頑張って農業をしている人がいる。その人たちのためにも遊休農地になってしまいう前に対策が必要」と話す。